

# 2008年度行事報告

## 【総会】-----

日 時：2008年7月27日（日）

場 所：佐倉城址公園

参加者数：49名

佐倉城址公園で行われた総会で事務局より平成19年度会計報告と平成20年度の世話人及び行事予定が提案され了承されました。

## 【第52回観察会】-----

日 時：2008年7月27日（日）

場 所：佐倉城址公園

講 師：吹春 俊光

参加者数：49名

採 集 数：29種（不明種を含む）

乾燥した公園内にはきのこは少なく、「何もないよ」と言いながら皆さん同定会場に戻って来られました。しかし、今回の目玉はツチグリに発生するタマノリイグチ（右上の写真）が採集されたことでしょう。ツチグリはよく目にしますが、このきのこが見つかるのは大変珍しく、今回が千葉県での2例目だそうです。観察会終了後、発見場所に案内してもらいました。いかにもツチグリが発生しそうな斜面の木の根元でした。幼菌が1本ありましたが、タマノリイグチかどうかの判別が難しいくらい小さなものでした。千葉での生態写真がまだないため観察を続けましたが、この幼菌はヒダがあり、残念ながらタマノリイグチではありませんでした。その他にキヌオオフクロタケやツバのあるマツオウジなどもありました。講師の吹春さんが作成した「き



第52回観察会で採集されたタマノリイグチ

のこマイスター講座」用のスライドショー「覚えてたい野生きのこ」を見せていただきました。

## 観察記録(50音順)

アイゾメクロイグチ、アイタケ、アセタケ属、アミスギタケ、アンズタケの仲間、イロガワリ？、ウスヒラタケ、オオツルタケ、オニタケ、キミアシイグチ、キクバナイグチ、キヌオオフクロタケ（珍菌。傘の表面に毛）、キヒダタケ、クモタケ、クロハナビラタケ、ケショウハツ、ケシロハツモドキ、コナカブリテングタケ、コフキササルノコシカケ、タマノリイグチ（珍菌。ツチグリに寄生）、ツチグリ、ツルタケ、ニッケイタケ、ノウタケ、ヒイロタケ、ヒナコナカブリツルタケ？、ヒラフスベ、フクロツルタケ、マツオウジ（ツバ有）

## 【第53回観察会】-----

日 時：2008年9月27日（土）

場 所：泉自然公園

講 師：吹春 俊光

参加者数：63名

採 集 数 : 65 種 (不明種を含む)

大気中への CO<sub>2</sub> 排出による地球温暖化が心配されていますが、実は地球は次の氷期に向かっているという説もあるそうです。でも、ようやく暑い夏も去り、正に秋たけなわのシーズンのはずですが、まだ夏のきのこが多いようでした。2008 年は台風の上陸が一つもなく、きのこ界にはどんな環境だったのでしょうか。この日、きのこ柄 T シャツを着た S さん、F さん、きのこ柄パーカーを着た某出版社の S さん (右の写真)。ファッション界はこの年きのこ柄が大流行? だったのでしょうか。

#### 観察記録 (50 音順)

*Lepiota* 属、アカキツネガサ、アシボソノボリリュウタケ、アセタケ属 (柄が長い)、アセタケ属 (大きい)、アセタケ属 (ピンク色)、ウスキモリノカサ、ウラベニガサ属、ウラムラサキ、ウラムラサキシメジ、オオイチョウタケ、オオホウライタケ、オニイグチ、オニタケ、カイガラタケ、カノシタ、カレバキツネタケ、カワラタケ、ガンタケ、キツネノロウソク、キヒダマツシメジ、クロアシノボリリュウタケ、クロハツ、クロハツモドキ、クロラップタケ、ケショウハツ、コバヤシアセタケ、コフキササルノコシカケ、サマツモドキ、シロハツ、ズキンタケ、スッポンタケ、スミゾメヤマイグチ、センボンイチメガサ、タマアセタケ、タマゴテングタケモドキ、タマチョレイタケ、チチタケ属、チャヒラタケ属、ツエタケ、ツクツクボウシタケ、ツチカブリ、ツチグリ、ツチナメコ、ツヤウチワタケ、ツルタケ、テングタケ、テングツルタケ、ドクツルタケ、トビチャチチタケ?、ナナフシテングノメシガイ、ニオイコベニタケ、ニガイグチ属 (傘オリーブ色)、ニガイグチ属 (傘紫色)、ニセショウロ属、ヌメリカラカサタケ属、ネンドタケモドキ、ノウタケ、ノボリリュウタケ、ヒメツチグリ属、ヒロハウスズミチチタケ?、ヘビキノコモドキ、ミキイロウスタケ、ミヤマ



きのこ柄パーカーを着た S 会員

タマゴタケ、ヤグラタケ

#### 【第 54 回観察会】-----

日 時 : 2008 年 10 月 18 日 (土)  
場 所 : 市原市民の森  
講 師 : 吹春 俊光  
参加者数 : 57 名  
採 集 数 : 84 種 (不明種を含む)

毎年多様なきのこが見つかる市原市民の森ですが、今回はヒョウモンクロシメジ (次頁上の写真) が採集されました。千葉県で今回初めて確認されたそうです。観察会の後で同定されたため、皆さんの記憶に残っていないと思われそうですが、学研の「日本の毒きのこ」に掲載されていますのでご確認下さい。ルリハツタケも見つかりました。瑠璃色の美しいきのこですが、見る見るうちに色が褪せてしまうので、採ってしまうのは惜しい気がします。胞子を風によって拡散させることが多い



観察会後に同定されたヒョウモンクロシメジ



第54回観察会の同定会場

と思われるきのこの達の色の多様性は何のためにあるのでしょうか。考えてみれば不思議です。

#### 観察記録(50音順)

アイシメジ(ひだの縁黄色)、アカキツネガサ、アカチャツエタケ、アカヤマタケ、アカヤマドリ、アシナガヌメリ、アシボソノポリリュウタケ、アセタケ属、アラゲホコリタケ、アンズタケ、イッポンシメジ属、ウコンハツ、ウスキモリノカサ、ウスタケ、ウラベニホテイシメジ、オキナクサハツ、オニタケ、オニフウセンタケ、カキシメジ、カクミノシメジ、カノシタ、カラカサタケ、カレバキツネタケ、ガンタケ、キシヨウゲンジ、キチチタケ、キヒダフウセンタケ、キヒダマツシメジ、クサウラベニタケ、クロハツ、クロハツモドキ、クロラップタケ、ケロウ

ジ、コウモリタケ、コタマゴテングタケ、コテングタケモドキ、サクラシメジ、サクラタケ、サマツモドキ、ザラエノハラタケ、シロアンズタケ、シロイボカサタケ、シロオニタケ、シロソウメンタケ属、スギタケ、タマゴタケ、タマシロオニタケ、チシオタケ、チチアワタケ、チチタケ、ツチナメコ、ツチヒラタケ、テングタケ、トビイロホウキタケ、トビチャチチタケ、ナラタケ、ニオイキシメジ(嫌な臭い)、ニガイグチ属、ヌメリイグチ、ノウタケ、ハエトリシメジ、バカマツタケ、ハツタケ、ハナビラニカワタケ、ヒトヨタケ、ヒトヨタケ属、ヒナアンズタケ、ヒメキシメジ、ヒョウモンクロシメジ(千葉で初めて確認、毒きのこ)、ヒラタケ、ピロードツエタケ、ヒロハウスズミチチタケ、フウセンタケ属、フクロツルタケ、ベニチャワソウタケモドキ、ホウキタケ類、ホコリタケ属、ホンシメジ?、ミネシメジ(ひだが粗い)、ムラサキシメジ属、ヤグラタケ、ヤマドリタケモドキ、ルリハツタケ、ワカフサタケ属

#### 【第52回日本菌学会参加】-----

日時:2008年5月30日(金)~6月1日(日)  
場所:三重大学

2008年5月30日~6月1日に三重大学で開催された「日本菌学会第52回三重大会」のアマチュアの会有志によるコーナー「アマチュア研究者の取り組み(2008年)」へ千葉菌類談話会もアマチュアきのこの会として参加し、談話会の紹介ポスターおよび会報の展示と絵葉書の販売などを行いました。

#### 【第9回菌類講座】ケシボウズタケ-----

日時:2008年12月13日(土)  
場所:千葉県立中央博物館研修室  
講師:浅井 郁夫  
参加者数:27名

今回は千葉菌類談話会の会員でもある浅井

さんにケシボウズタケの分類と観察について平易に詳しく解説していただきました。砂に埋まっている小さな個体、風化作用で短期間に個体の様子が変化する、老菌のまま長く残存する等々、観察することの困難さを知って驚きました。子囊を見れば一目瞭然のはずなのに最近まで担子菌のケシボウズタケ科に分類されていたコウボフデのエピソードなどは分類に必要な各ステージの個体採集が如何に難しいかということをお話しています。午後からは顕微鏡を使って孢子等を観察しました。すっかり忘れていた100倍の対物レンズの扱い方も丁寧に教わりました。

#### 【第17回スライド会】-----

日 時：2009年1月24日（土）  
場 所：千葉県立中央博物館講堂  
参加者数：46名

#### スライド発表

松田弘義：四街道のきのこ  
腰野文男：リバイバル・スライド特集  
三休さん：多々狩れ！超きのこ生命体  
伊豆明雄：2008年に採ったきのこ 笠森～富士山  
内海紀子：君津市・木更津市の山に生えていたきのこ  
村野忠夫：きのこ観察ーテングタケ属を中心に  
須賀良行：2008年のきのこ  
浅井郁夫：キリノミタケなど  
吹春公子：今年であった珍菌

#### ハンドベルサークル「すずらん」による演奏

曲目「心の友」「崖の上のポニョ」「栄光の架け橋」

スライドは今年も力作揃いで上映時間が足りなくなり、最後の発表者の方は時間に追われて大変だったと思います。そして今回初参加の会員の方もいて興味深く拝見しました。



きのこグッズの展示会場

ハンドベルサークル「すずらん」の演奏はこの寒い季節にほんわかした温もりを感じさせてくれました。また来年もよろしくお願ひします。

#### きのこグッズ展示コーナーより

今回も数々の出品をありがとうございます。どうぞ来年もふるってご参加ください。以下に展示品の紹介をいたします。

#### <写真>

「変なきのこ」（その1）どっちが先（その2）奇な茸、富士山のきのこ、今年のきのこ

#### <書籍・資料等>

- ・2007・2008気温・雨量の関係グラフ「ヤマドリタケモドキの発生」
- ・書籍：「考えるきのこ」「菌類のふしぎ」、佐野書店

#### <その他の展示品>

きのこ家紋と輪島塗、キヌガサタケの香炉の写真、日刊紙きのこ情報・雑誌記事の切り抜き、きのこのランプ4点、きのこ柄エプロン、積み木クリップ、置物、アクセサリー、ポット、販売きのこの包装紙、手作りキャラメル、竹べら、ドングリ独楽、里山紹介のチラシ、乾燥茸、採集生菌（ヒラタケ、ショウロ）、なお出品者名は割愛させて頂きました。

（このコーナーは会員の菊地栄子、大鷲和子が担当しました。）